

山形県社会福祉士会だより

Vol 5 平成 25 年 9 月 29 日発行 一般社団法人 山形県社会福祉士会

〒996-0021 山形市小白川町 2 丁目 3 番 31 号 山形県総合社会福祉センター内

TEL 023-615-6565 FAX 023-615-6521

HP: <http://www10.plala.or.jp/yacm/yacsw/> E-mail: yacsw@smail.plala.or.jp

発行責任者/安部 久 編集者/広報委員会

目 次

岩手大会報告 1	委員会報告 6
各地区支部報告 3	事務局/介護学習センター 8
会員リレー寄稿 5	編集後記 8

岩手大会参加報告

山形県社会福祉士会 事務局長 柴田邦昭

7月6～7日盛岡市民文化ホール「マリオン」を主会場に、第21回日本社会福祉士会全国大会「社会福祉士学会岩手大会」が開催されました。全国各地から約1,000人の社会福祉士の参加があり、本県からも多数の会員が参加しました。



大会のメインテーマ「共生社会の創造～参加と自立を実現する地域社会とは～」のもと一日目は、厚生労働省社会・援護局の「新たな生活困窮者と社会福祉士への期待」と題した講演、日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教授平野隆之先生の「共生社会の創造～参加と自立を実現する地域社会～」の演題での基調講演に続き、基調講演と同じテーマでシンポジウムがおこなわれました。

厚生労働省社会・援護局からは、生活保護の見直しや、生活保護に陥る前に支援を行う「生活困窮者自立支援法」（6月国会では廃案、秋の臨時国会に再提出予定）の概要と、そのような動きの中で相談支援の専門職として期待される社会福祉士の役割、及び必要な知識や技術。社会福祉士への期待の高まりと活躍の場の広がりについての内容でした。

基調講演は、地域福祉を研究テーマとしている平野先生らしい切り口で、「富山型地域福祉」の推進という視点からのケア分野とソーシャルワーク分野の共生の捉え方。東日本大震災を契機として明確になった「非制度型の地域福祉の生成の手がかり」と「生活困窮者自立支援法案」の形成過程に見る「地域社会への参加」という視点から、共生社会の創造～参加と自立を実現する地域社会について論じられました。

シンポジウムでは、コーディネーターを平野隆之先生が努め、シンポジストに釧路で活動しているNPO法人地域生活支援ネットワークサロン事務局代表日置真世氏、岩手県立高田病院病院長石木幹人氏、岩手県立大学教授狩野徹氏、岩手県社会福祉士会阿部孝司氏が登壇し、日置氏からは、当事者の家族という立場にありながらも支援者として地域の中で暮らしやすい環境や地域づくりの実践を、また石木氏からは、東日本大震災からの復興、復旧。その中で社会福祉士との連携について、狩野氏からは、建築家の立場で交流が生まれる建物、誰もが使いやすい建物等、災害住宅建設などを通じての地域づくりについて、阿部氏からは、障がい者支援を通じて、教育・住居・就労という視点での暮らしやすい社会づくりについてそれぞれ報告をいただき、「共生社会とは何か」について学びました。

大会2日目は、午前中に「権利擁護の現状と課題」「ソーシャルワークが果たす役割」等8つの分科会で34本の報告と、岩手特別分科会で「被災県民の生活を支えるネットワークと新たな挑戦」と題したシンポジウムが行われました。午後の記念講演は「平泉の浄土思想と共生社会」と題した講演を、毛越寺執事長藤里明久氏が行いました。平泉

が世界遺産に登録されるまでの経過等も踏まえ、浄土思想の持つ意味や、共に生きる事の大切さについての内容となりました。



当初は、バス2台を準備し80名の参加の目標としましたが、バス1台で30名の参加となりました。(個人での参加者を除く)同じバスに揺られての参加で、宿泊は繋温泉。夜の懇親会は次の日まで盛り上がり、参加者同士の情報交換や、日頃抱えている悩み等を話す大変有意義な場となりました

各地区支部活動報告

最上地区支部活動について

最上地区の平成25年度の活動は、今年度の事業計画に沿って6月7日(金)に12名の会員の出席により、新庄市内の居酒屋「わさびや」にて平成25年度第1回の定例会



を開催しました。5月25日(土)に開催した、総会内容の報告と新規会員の歓迎会を合わせて開催し時間のたつのも忘れるぐらい賑やかに盛り上がり、日頃の仕事のことや互いの情報交換を行い、帰るのももったいないと、そのまま二次会のカラオケボックスに移動し、楽しく懇親を図った定例会からのスタートとなりました。又、7月6日、7日の全国大会の岩手大会には、少数精鋭の3名で出席してきました。

庄内地区支部活動について

庄内ブロック「ばあとなあ」学習会

7月28日(日)に、庄内ブロック「ばあとなあ」の学習会があり、「被後見人がなくなった時」について、各会員が事例を持ち寄りました。庄内には、「ばあとなあ」登録会員が二四名おり、当日の参加者は十六名ですので、驚異の参加率66%でした。

パワーポイントで要点を説明してくださったり、資料をきちんと作成してくださったりと、とても中身の濃い学習会となりました。

教科書的には、被後見人の死亡で事務終了なのですが、一人一人の生活環境で、本当に大変な事例が多いのも、事実です。社会福祉士だからできる、成年後見活動に磨きをかけたいものです。「ばあとなあ」は強い味方です。



村山地区支部活動について

7月下旬の記録的な大雨被害は大変でしたね。災害にあわれました方にはお見舞い申し上げます。私も天童市に住んでいますので、5日間の断水は、洗濯や入浴など大変不便で、水のありがたさがわかったところです。

村山ブロックは、北は尾花沢市、南は上山市と縦に長〜く位置していることから、昨年より小ブロックに分けたミニ懇親会を開催しています。これまで参加者が少なくなってきたのが悩みでしたが、小ブロックにしたところ「同じ地区の会員と交流したい」と集まって頂けたので、今年も継続したいと思います。会員の職種は、行政、社協、

施設職員など多岐に渡り、お互いの仕事を知らない会員も少なくありません。そこで今年には職場見学も含め実施していきます。

7月27日に寒河江市にて「寒河江・西・東南村山方面」の職場見学とミニ懇親会を行いました。職場見学は特養ホーム「長生園」にお願いしていましたが、寒河江市内も断水中のため見学が中止となり、懇親会も危ぶまれましたがなんとか開催し交流することができました。今後も小ブロック活動のほか「赤い羽根共同募金街頭運動」を予定していますので、ぜひご協力をお願いします。

活動の詳細はホームページに掲載します、ぜひご覧ください。



書籍紹介

ネットワークを活用した ソーシャルワーク実践

～事例から学ぶ「地域」実践力養成テキスト～ 編集社団法人日本社会福祉士会

中央法規出版 2013年6月13日発行

2006年4月 介護保険法改正により包括支援センターが設置され、社会福祉士が配置されました。包括支援センターへ社会福祉士が配置されたことは、日本社会福祉士会にとって大きな転機でした。それから、6年が経過しました。この6年間、日本社会福祉士会では様々な包括支援センターに関する研修会開催・テキスト発行を行ってきましたが、今回紹介する『ネットワークを活用した ソーシャルワーク実践』は集大成として発行されたテキストです。包括支援センターで勤務していない方も是非、読んでみてはいかがでしょうか。



会員一斉寄稿 NO.3

社会福祉士の使命とは

山形県社会福祉士会理事
山形県老人福祉施設協議会会長
特別養護老人ホームながまち荘 施設長

峯田 幸悦 氏

平成3年第3回社会福祉士国家試験に合格・登録。続いて、平成5年山形県社会福祉士会設立の準備に取りかかり、16名の会員でスタートした山形県社会福祉士会も現在460名の会員に拡大しました。平成12年6月より山形県は、社会福祉士会入会率が全国第1位を保持しましたが、3、4年前から全国第3位の入会率に降格してしまいました。大変残念でなりません。是非もう一度第1位復活を念願しています。

私は、昭和55年3月に東北福祉大学を卒業し、4月に山形県済生会特養愛日荘の生活指導員として入職。その後、平成17年6月に同法人のながまち荘の施設長に異動になり現在に至っています。現在は、4月より一般社団法人山形県老人福祉施設協議会会長に就任しました。老人福祉施設協議会は、特養、養護、軽費・ケアハウス、デイサービスセンター等の210事業所が加盟しています。事業としては、喀痰吸引の登録研修機関、介護力向上講習会、地産地消事業、高齢者福祉施設防災ネットワーク協定推進にも取り組み、地域の福祉拠点としての特養について研究実践を進めています。介護の魅力を取り戻し、より質の高い介護現場の実現に向けて活動しています。

また、従前より課題になっていたものの整理できなかつた、「特養のソーシャルワークのあり方」について、済生会本部の助成金を利用し、熊坂聡元山形県社会福祉士会会長と一緒に調査研究をしています。特養のソーシャルワーカーのあり方は、元北星学園大学の米本先生が提唱している9つの機能論があるようですが、それを踏まえ、それ以上に、現在の特養は、経営の分かるソーシャルワーカーが必須であると考えます。経営者になるためだけでなく、利用者の視点に立った経営とは結局、人材も含めた経営が理解できる人材育成が必須ですし、それにより質の高い介護(科学的介護)の体制づくりが実践できます。そのため、これからはややもすると、社会福祉士はケアマネジメントのみに着眼するのではなく、優れた組織のリーダーであるべき社会福祉士を育成しないといけなくなってきたと痛感しています。社会正義の実現と改革の「志」が何よりも大切です。特養組織が改善されれば、地域の福祉問題の7割は解決できると30年前から真剣に考えていました。そのために、生活相談員等の社会福祉士の勤務が常態化することを希望するものでありますし、施設長は、基本的には社会福祉士所持者になるように提案していきます。皆さん、このことを真剣に心から賛同する方は、是非ご連絡ください。



委員会活動報告

山形県市町村職員等高齢者虐待防止情報交換会初任者研修を終えて 権利擁護委員会高齢者虐待対応部会 板垣 久

去る平成25年7月12日に、山形県市町村職員等高齢者虐待防止情報交換会初任者研修を開催した。高齢者虐待防止担当として経験年数がおおむね2年未満の行政職員・地域包括支援センター職員を対象に、高齢者虐待の現状について行政説明を行い、高齢者虐待への対応の講義、事例紹介、高齢者虐待とは何かを学ぶ演習を行った。私は、その演習を担当させていただいた。

個人およびグループでのワークショップを通じて、寄せられた相談に高齢者虐待対応が必要かどうかの「気づき」を促したり、一つのケースで複数の高齢者虐待が絡んでいることを学んでもらったりした。参加された皆さんは、熱心に演習に取り組んでいただいた。

初任者への研修、演習を行いながら、ふと、自分が地域包括支援センターに配属された当時のことが頭に浮かべた。

平成18年に、総合相談支援、権利擁護などの業務を担うべく、地域包括支援センターが設置されたが、開設当初は、併設された指定介護予防支援事業所の業務に追われていた。そんな折、介護支援専門員より、経済的搾取を受けているようだと言われた。当時、高齢者虐待対応についての具体的なマニュアルはなかったが、行政の担当部署と連携し、介護保険事業者とともに事例対応した。行政が高齢者虐待対応の第一義的な責務を担い、地域包括支援センターが専門性を持って事例対応することができた。

現在、山形県やほとんどの市町村で高齢者虐待対応マニュアルが策定され、研修が数多く開催されるようになった。また、それぞれの市町村・地域包括支援センターには、これまで対応した事例の積み重ねがある。

しかし、高齢者虐待対応の業務を担当する職員は、異動があり、毎年、初めて高齢者虐待に対応する職員がいる。そういった方たちに、高齢者虐待に対して熱意を持っていただき、これまでの経験の積み重ねを伝えることが、権利擁護委員会高齢者虐待対応部会としての役割と思う。



研 修 委 員 会

研修委員会 荒木 秀一

県士会主催の研修に参加したことがきっかけで、研修委員会に混ぜていただき、4年目になります。

昨年度までの研修委員会は、(1) 生涯研修・基礎研修の企画・運営 (2) 自分たちが社会福祉士としてどんなことを学びたいか意見を出して企画・運営をするという2点を、総合的に研修委員で担っていた形でした。

今年度からは、皆さんのお手元にも黄緑の総会資料が届いたと思いますが、組織編成が新しくなり、「生涯研修センター運営委員会」と「研修委員会」が分かれて組織されました。

先日、合同委員会を行い、「生涯研修センター運営委員会」は、生涯研修センターの運営、基礎研修Ⅰ・Ⅱ(来年度から基礎研修Ⅲ)を担当し、「研修委員会」は、毎年3回実施しているワンコイン研修の企画・運営と、社会福祉士として学びたい事を形にしていくスキルアップ研修の企画・運営を行っていきます。

今年度の研修委員会も、受講した会員の皆さんが「受けて良かった」「ためになった」「おもしろかった」「いいね!」と『プラスの感情』の抱いてもらえるような研修を企画していきたいと思っています。

今後の研修予定を下記に掲載しますので、気軽に研修にご参加下さい。

<1>ワンコイン研修

第1回 9月18日(水) 19:00~20:00

「児童養護施設の現状」

第2回 10月23日(水) 19:00~20:00

「精神障がい者への地域支援」

第3回 11月20日(水) 19:00~20:00

「アルコール依存への支援」

<2>スキルアップ研修 12月21日(土)

-マックの看板はなぜ赤い?!- 『色と心のトリックを探ろう!』
~色彩が与える心と身体の関係・色と心のコミュニケーション~



事務局から Infomation !

介護職の皆様の心と身体をケアします をキャッチフレーズに
本会では今年度、山形県の事業助成を受け2つの事業をすすめています。
関心のある方は是非ご利用ください。

また、お知り合いにもぜひお勧めしてください！

①健康応援出前講座の開講

腰痛予防、軽減のための体操やストレッチ体操、リラクゼーション(ヨガなど)の研修を受けてみませんか?現在、置賜地区では日程と会場を限定し参加者を募集しています。置賜の皆さん、お近くの会場で受講してみたいはいかがですか?

②しごと・ところ相談室 ~時にはゆっくり話をしてみませんか?~

面接、電話、Fax、メールで相談を受け付けています、面接は産業カウンセラー、キャリアカウンセラーの資格をもつ相談員が対応し、おかねはかかりません。匿名も可。相談内容に関する秘密は厳守します。

どちらも詳細はチラシをご参照ください。たくさんのご利用をお待ちしています!

山形県介護学習センター今月の講座案内

10/16(水) 13:00~15:00	介護予防講座『介護保険の仕組みとサービス』 介護保険サービスを利用するまでの流れや、さまざまな介護サービスについて、ご説明いただきます。	児玉 直子氏 (介護支援専門員)
10/18(金) 13:00~14:30	福祉用具まなび会『「あるく」を助ける福祉用具』 その方の状態に合った、歩行や移動方法をサポートする補助具について、実物を見ながらわかりやすく説明していただきます。	岡崎医療株式会社 福祉介護専門グループ 係長 佐藤 博幸氏
10/22(火) 13:00~15:00 置賜会場	県民公開講座『認知症の方へのやさしい介護技術』 会場：米沢市すこやかセンター 認知症の方と介助者が、互いに安心して生活できる環境づくりやケアについてお話を伺います。	田中 義行氏 (理学療法士)
10/23(水) 13:00~15:00 庄内会場	県民公開講座『認知症の方へのやさしい介護技術』 会場：酒田市公益研修センター(東北公益文科大学酒田キャンパス内) 認知症の方への支援のあり方について、一緒に考えてみませんか?	田中 義行氏 (理学療法士)
10/30(水) 13:00~15:00	介護予防講座『口腔ケア~口と歯のお手入れ術』 口腔内の機能や、口と歯の効果的なお手入れ方法を学ぶことで正しい知識を身につけましょう。	佐藤 みどり氏 (歯科衛生士)

→講座の申込は山形県介護学習センターまで
TEL:023-627-7431 / FAX:023-627-7433



編集後記

会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。広報誌の発行が遅れてしまい申し訳ありません。

基礎研修(1)(第2期)基礎研修(2)第1期がスタートしました。資格取得が最終目標ではありません。生涯研修に積極的に取り組まいませんか。広報誌に対する、要望を是非お寄せください。

